

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2298400017		
法人名	株式会社オハナ		
事業所名	日ノ岡グループホーム		
所在地	静岡県湖西市岡崎2254-2		
自己評価作成日	令和4年7月19日	評価結果市町村受理日	令和5年1月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2298400017-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和4年7月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍で自由に外出が出来ない中でも入居者様が日々を楽しみ過ごして頂け、かつ一人一人のその日・その時の体調や気分も考慮しながら各職員が工夫して声掛け、支援をして下さっています。面会が制限されている中でのご家族様への対応としては毎月グループホーム便りを郵送させて頂いており、電話での連絡も行わせて頂くことでの近況報告をさせて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「介護福祉士が15名も」と前回の外部評価で驚いたことが記憶に新しい今、更に1名増えており、その向上心には頭が下がります。15年という歳月をかけてプロ意識を育てたことも功績ですが、年2回おこなう家族会(コロナ禍で休会中)には総勢50名余(職員含)もが集うという家族との絆も地域密着型事業所として高く評価されます。外出もままなりません、家族は「コロナ対策を万全にされていてよいと思う。そのため面会が不自由だが、この方法で安心している」とエールを送ってくださり、「自宅ではよく転倒をしていたが、入所後は一度も無い」「入所後は血色がよくなり、健康になった」と満足気な言葉もあがっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の経営・行動方針に基づき理念を作成。日々の関わりの中で実践に繋げていると思う。	法人の経営・行動方針、いわゆる法人理念をもとに事業所理念を作成しています。現在の状況では、「一日一日を大切に」ということが染み入る毎日で、より浸透が進んでいると管理者は受けとめています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍により人混みを避けている為、買い物や外食等の支援ができておらず、外部との接触が殆どない。	コロナ過前には事業所の夏祭りをチラシでPR、関係者だけでなく、地元の人たちにも是非集って欲しいとして、駅前告知したことは遠い昔で、利用者だけでなく職員も交流のあった皆さんの顔を忘れそうです。	これまで関係があったけれど会えていないというボランティアをはじめとする支援者に年賀状などの季節のお便りを試みることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍によりオハナカフェや地域への認知症カフェへの参加といった地域との交流ができていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により運営推進会議の開催を見送っており、資料のみ市に提出している。8月は開催を予定している。	偶数月の第二火曜日と定めて隔月開催に努めています。しばらく書面開催が続いており、次回の参会を心待ちにしています。実施状況を直接報告できたときは、聴取した意見を向上点に活かしています。	書面開催、参会どちらの場合でも、運営推進会議の報告書には介護度や年齢の内訳、事故や行事の報告などが記載されることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書類の提出や手続き以外では足を運ぶことは少ないが、協力は出来ていると感じる。	湖西市からの配信メールは欠かさずチェックしています。また、ニーズとシーズが合わず成約になることは希なもの、地域包括支援センターからは空室照会も入り、気にかけてもらえています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	離設対策として17時～10時の間は玄関を施錠している。定期的に評価を行い緩和に向けて対応を検討しているが、現状施錠の中止には至れていない。	帰宅願望の強い利用者の入居に伴い、施錠時間が設けられてはいますが、身体拘束廃止委員会においても議題にあげ、施錠が当たり前として恒常化しないよう働きかけており、適切に推進されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	怪我があった際にはインシデントの作成により原因・対策を考えて情報の共有を行っている。外部研修は行っていないが、勉強会にて学ぶ機会を作っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての勉強会は出来ておらず、理解出来ていない職員が多い		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容について特にトラブルは起きていない。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会やケアプランの説明等の機会に近況報告を行った上で要望を聞き、可能な範囲で対応している。	電話や毎月の「日ノ岡グループホームだより」で利用者本人の様子を家族に知らせています。また「職員より」「施設長より」と枠を分け、立場の異なる者からの視点や意見が届くようにもしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	こちらから声を掛ける以外に、職員の方からも気になる事があれば意見を頂けている。	大変勉強熱心なことは管理者も自負するところですが、なにかあればいち早く報告が入り、報連相がオペレーションに根付いている点には助けられており、自慢でもあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員より入居者様に対する対応で取り入れたい事の相談があれば無理のない範囲で実践してもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍により現在外部研修の殆どの参加を見合わせている。内部研修は開催されており、その旨を告知している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への参加が出来ておらず交流の機会を作れていない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の情報を基に本人の話を傾聴し、安心して共同生活を送ることが出来るよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様にも安心して頂けるよう不安や要望を聞き、良好な関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを行い必要な支援を見極め、適切なサービス提供が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事手伝いの依頼やレクリエーションへの参加、コミュニケーションを通し共に過ごす時間を作り関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設での生活の様子を伝え対応を相談させて頂くことで本人とご家族様の関係を保ち共に支援する関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に利用していた理容店に出かけたり、ご家族様や知人と電話や手紙のやり取りをしている。	かくしゃくとした人が多く、10名ほどが未だ新聞を読んでおり、文字に親しむ時間を持っています。食事も以前の好みを反映させていて、中には「納豆は大粒」を貰く人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を把握し家事やレクリエーションを通じて関わる事が出来るよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時には入居中に撮った写真やレクリエーションで作った作品を渡している。退居後も相談があれば応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の様子や会話から本人の希望や意向を把握出来るよう努めている。意思表示が困難な方は生活歴やこれまでの様子から本人本位に検討している。	「家に帰りたい」を叶えてあげられない(コロナや家の事情などで)場合にも、なんとか気持ち穏やかに暮らしてもらいたいとして、好きな食べものを提供するなど代替となるものを常に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や本人から話を聞いたり、ケアマネジャーと連絡を取ることで情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の様子や記録、職員間での情報共有により現状を把握出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員同士で情報交換を行い、ご家族様や本人の意見を反映させて介護計画を立てている。	利用者の変化には迅速に対処して介護計画の変更につなげています。また介護計画書のニーズには「～したい」と利用者本人の語り口調での記載があり、寄り添った介護があることが覗えます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録、申し送り、フロア会議などで情報の共有を行いより良いケアにつなげることが出来るよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様からの話や意向、本人の希望や現在の状況からニーズを把握し、適切なサービスが提供出来るよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により現在、地域資源の活用が困難な状態となっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度嘱託医の訪問診療がある。他、必要に応じてその他の医療機関の受診も行っている。	訪問診療をおこなってくださる協力医の診察を毎月受けています(医師は1回9名の診察で月2回の訪問)。立ちあいは管理者ですが、「訪問診療受診ファイル」に記録が残され、職員間で共有ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の変化は都度看護師や嘱託医に報告・相談し指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に施設での生活の様子や医療面の情報などを正確に伝えている。退院に向けて医療機関の相談員と連絡を取り合うことで現状を把握し、退院時の受け入れがスムーズに出来るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に予め説明・確認を行っている。実際に必要になった場面では医療機関と連携し可能な限りの支援を行っている。	協力医が24時間オンコールの体制になく、そのため事業所では終末期のケアサービスが十分にできないとして、看取りは実施していません。家族には契約時に十分説明をおこない、理解を得ています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応のマニュアルを掲示し全職員が対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を日中・夜間想定で行っている。	防災訓練はその時の状況で実施月を変更することがあり、例年の状況では1月から3月、7月から9月の期間で各1回ずつ開催されています。停電時の備えは経験から概ね揃っていますが、食糧は3日で十分とはいえません。	防災訓練、外部評価など実施の定めのあるものは年間計画に位置づけ、できるだけ定例開催となることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	フロア会議の際に接遇の勉強会を行い、入居者様の尊厳を損ねないような対応、言葉遣いを心掛けている。	職員の定着率が高く、利用者もおかげさまで長生きです。そのためお互いの家族と過ごす時間よりも長くなり、馴れ合いの芽を摘むことも職員業務の一つです。事業所でも研修などで意識継続の支援をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分から意思表示をすることが難しい方でも、希望を聞き自己決定が出来るように声掛けを工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に1人1人の意向に沿った支援は難しいが、可能な範囲でそれぞれのペースで生活出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身で行える方には服を選んでもらったり身だしなみを整えてもらっている。必要であれば職員が季節に合わせた服を選んだり、身だしなみを整えられるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好みや季節に合わせたメニューを作成。回数は多くはないが、食事・おやつ作りに参加してもらったり片付けなどを行っている。	普段は調理済みの献立がタッパーに収まり届いていますが、ひな祭りにはちらし寿司、クリスマスにはチキンなどと、時節料理には職員が腕を振るっています。また、おやつでは食べたいメニューを聞いて提供する機会もあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や形態を1人1人に合った形で提供している。水分についてはトロミを使用したり水分補給ができるゼリーを使用したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。自力での口腔ケアが難しい方には職員が介助を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄パターンを把握し、できるだけトイレでの排泄が出来るように支援している。	平均介護度が1.8で、日中布ばんつで大丈夫という人も5名いて総じて壮健です。ただし、排泄行動は生活そのもののリハビリとして、トイレでの排泄が困難になっても簡単に諦めず、「できる限りトイレで」を励行しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や難消化性デキストリンを活用したり体操を行ったりすることで自然な排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ある程度入浴日・時間を決めてはいるが、本人の体調や希望により入浴日や時間を調整し柔軟に対応している。	下肢筋力が低下して浴槽をまたぐのが難しい、またはリスクが高いという場合にはリフト浴を提供しています。入浴剤は数種類備え、湯に浸かる喜びとともに「選ぶ楽しみ」も味わえています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は外気浴やレクリエーション、体操などを行って頂き、生活リズムを整えられるよう心掛けている。無理のない範囲で行い、日中の休息や夜の就寝時間は1人1人に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報をすぐに見られるようファイリングしている。変更があった際には都度申し送りを行い与薬ミスのないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や職業歴などから得意な事、好きな事、出来る事を見つけ、役割を持つことが出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により外出支援に制限が掛かってしまっている。外気浴・散歩・ドライブなど人混みを避けての外出支援を行っている。	以前には春と秋の年2回、日帰り旅行を企画していましたが、現状は降りないドライブ、外気浴、散歩を天候や気温、時間帯などで織り交ぜるしありません。そんな中でも戸外にはきれいな花も咲いていて、眺めるだけでも気分転換になっています。	地域のお祭りや風光明媚な旅などのDVDを流したり、コロナ明けに取り組む外出企画を目標に歩行訓練をおこなうなど、本件における更なる工夫を期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の入居者様は現金を所持しており、必要に応じて使うことが出来るようにしているが、現状その機会を設けられていない。現金を所持していない方でも希望に応じて立替という形で物品購入の対応をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一部の入居者様は携帯電話を所持しており自身で電話を掛けている。他、手紙のやり取りを行っている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節によってフロア内の掲示物や写真を変更し、季節を感じられるようにしている。	本年は加湿器を大型で高性能なものに買い換え、各ユニットに設置しています。以前はグリーンカーテンもあって目にも涼やかでしたが、今年の夏はすだれで日差しを遮っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士の関係性を考慮して席を決めている。何らかの変化があった場合も随時対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持って来て頂けるようご家族様をお願いしている。本人とも相談して居室内のレイアウトを決めている。	歩行器や車いすをつかう人には職員が動線を考えた家具配置をおこないますが、基本好みで自由にしてもらっています。またひ孫が手製のカレンダーをつくって届けてくれ、壁に掛け毎日眺めてる利用者もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内で安全に過ごして頂けるよう配置や整頓に気を配っている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2298400017		
法人名	株式会社オハナ		
事業所名	日ノ岡グループホーム		
所在地	静岡県湖西市岡崎2254-2		
自己評価作成日	令和4年7月19日	評価結果市町村受理日	令和5年1月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kami=true&JigyosyoCd=2298400017-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和4年7月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍で自由に外出が出来ない中でも入居者様が日々を楽しみ過ごして頂け、かつ一人一人のその日・その時の体調や気分も考慮しながら各職員が工夫して声掛け、支援をして下さっています。面会が制限されている中でのご家族様への対応としては毎月グループホーム便りを郵送させて頂いており、電話での連絡も行わせて頂くことでの近況報告をさせて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「介護福祉士が15名も」と前回の外部評価で驚いたことが記憶に新しい今、更に1名増えており、その向上心には頭が下がります。15年という歳月をかけてプロ意識を育てたことも功績ですが、年2回おこなう家族会(コロナ禍で休会中)には総勢50名余(職員含)もが集うという家族との絆も地域密着型事業所として高く評価されます。外出もままなりません、家族は「コロナ対策を万全にされていてよいと思う。そのため面会が不自由だが、この方法で安心している」とエールを送ってくださり、「自宅ではよく転倒をしていたが、入所後は一度も無い」「入所後は血色がよくなり、健康になった」と満足気な言葉もあがっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の経営・行動方針に基づき理念を作成。日々の関わりの中で実践に繋がっていると思う。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により人混みを避けている為、買い物や外食等の支援ができておらず、外部との接触が殆どない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍によりオハナカフェや地域への認知症カフェへの参加といった地域との交流ができていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により運営推進会議の開催を見送っており、資料のみ市に提出している。8月は開催を予定している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書類の提出や手続き以外では足を運ぶことは少ないが、協力は出来ていると感じる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	離設対策として17時～10時の間は玄関を施錠している。定期的に評価を行い緩和に向けて対応を検討しているが、現状施錠の中止には至れていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	怪我があった際にはインシデントの作成により原因・対策を考えて情報の共有を行っている。外部研修は行っていないが、勉強会にて学ぶ機会を作っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての勉強会は出来ておらず、理解出来ていない職員が多い		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容について特にトラブルは起きていない。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会やケアプランの説明等の機会に近況報告を行った上で要望を聞き、可能な範囲で対応している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	こちらから声を掛ける以外に、職員の方からも気になる事があれば意見を頂けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員より入居者様に対する対応で取り入れたい事の相談があれば無理のない範囲で実践してもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍により現在外部研修の殆どの参加を見合わせている。内部研修は開催されており、その旨を告知している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への参加が出来ておらず交流の機会を作れていない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の情報を基に本人の話を傾聴し、安心して共同生活を送ることが出来るよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様にも安心して頂けるよう不安や要望を聞き、良好な関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを行い必要な支援を見極め、適切なサービス提供が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事手伝いの依頼やレクリエーションへの参加、コミュニケーションを通し共に過ごす時間を作り関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設での生活の様子を伝え対応を相談させて頂くことで本人とご家族様の関係を保ち共に支援する関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に利用していた理容店に出かけたり、ご家族様や知人と電話や手紙のやり取りをしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を把握し家事やレクリエーションを通じて関わる事が出来るよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時には入居中に撮った写真やレクリエーションで作った作品を渡している。退居後も相談があれば応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の様子や会話から本人の希望や意向を把握出来るよう努めている。意思表示が困難な方は生活歴やこれまでの様子から本人本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や本人から話を聞いたり、ケアマネージャーと連絡を取ることで情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の様子や記録、職員間での情報共有により現状を把握出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員同士で情報交換を行い、ご家族様や本人の意見を反映させて介護計画を立てている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録、申し送り、フロア会議などで情報の共有を行いより良いケアにつなげることが出来るように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様からの話や意向、本人の希望や現在の状況からニーズを把握し、適切なサービスが提供出来るよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により現在、地域資源の活用が困難な状態となっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度嘱託医の訪問診療がある。他、必要に応じてその他の医療機関の受診も行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の変化は都度看護師や嘱託医に報告・相談し指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に施設での生活の様子や医療面の情報などを正確に伝えている。退院に向けて医療機関の相談員と連絡を取り合うことで現状を把握し、退院時の受け入れがスムーズに出来るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に予め説明・確認を行っている。実際に必要になった場面では医療機関と連携し可能な限りの支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応のマニュアルを掲示し全職員が対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を日中・夜間想定で行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	フロア会議の際に接遇の勉強会を行い、入居者様の尊厳を損ねないような対応、言葉遣いを心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分から意思表示をすることが難しい方でも、希望を聞き自己決定が出来るように声掛けを工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に1人1人の意向に沿った支援は難しいが、可能な範囲でそれぞれのペースで生活出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身で行える方には服を選んでもらったり身だしなみを整えてもらっている。必要であれば職員が季節に合わせた服を選んだり、身だしなみを整えられるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好みや季節に合わせたメニューを作成。回数は多くはないが、食事・おやつ作りに参加してもらったり片付けなどを行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や形態を1人1人に合った形で提供している。水分についてはトロミを使用したり水分補給ができるゼリーを使用したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。自力での口腔ケアが難しい方には職員が介助を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄パターンを把握し、できるだけトイレでの排泄が出来るように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や難消化性デキストリンを活用したり体操を行ったりすることで自然な排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ある程度入浴日・時間を決めてはいるが、本人の体調や希望により入浴日や時間を調整し柔軟に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は外気浴やレクリエーション、体操などを行って頂き、生活リズムを整えられるよう心掛けている。無理のない範囲で行い、日中の休息や夜の就寝時間は1人1人に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報をすぐに見られるようファイリングしている。変更があった際には都度申し送りをを行い与薬ミスのないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や職業歴などから得意な事、好きな事、出来る事を見つけ、役割を持つことが出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により外出支援に制限が掛かってしまっている。外気浴・散歩・ドライブなど人混みを避けての外出支援を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の入居者様は現金を所持しており、必要に応じて使うことが出来るようにしているが、現状その機会を設けられていない。現金を所持していない方でも希望に応じて立替という形で物品購入の対応をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一部の入居者様は携帯電話を所持しており自身で電話を掛けている。他、手紙のやり取りを行っている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節によってフロア内の掲示物や写真を変更し、季節を感じられるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士の関係性を考慮して席を決めている。何らかの変化があった場合も随時対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持って来て頂けるようご家族様をお願いしている。本人とも相談して居室内のレイアウトを決めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内で安全に過ごして頂けるよう配置や整頓に気を配っている		